

令和5年度 江戸川区立宇喜田小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ子 ・やさしい子 ・元気な子 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・自ら課題を見付け学び、思考力・判断力・表現力・想像力のある児童を育成する ・人や自然とかかわりながら、感動する心、協調と思いやりの心を育成する ・友達と互いに励まし合いながら、しなやかでたくましい心と体を育成する
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・算数科の校内研究を行い、授業の内容が分かりやすいという回答92%を得た。指導力の向上を目指して今後も取り組んでいく。 ・専門員やSC等の外部機関と連携を図りながら、共生社会の実現に向けて支援を行うことができた。 ・なかよし班活動を通して学校全体での異年齢集団での交流を深めることができた。 <課題> ・基礎基本の定着を目指し、自主学習や補習等を組み合わせながら学力向上につなげていく。 ・学習用タブレット端末を活用し、探究的な学習や協同的な学習を進めていく。 ・自分の思いをしっかりと伝え、互いの考えを認め合えるようにする。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間における個で考える時間の設定 ・1日1回以上のペアやトリオ、グループによる「学び合い」の学習活動設定 ・補習時間(朝学習/放課後)の確保、家庭学習習慣の確立 ・ICT機器を活用した授業の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容が分かりやすい(児童アンケート 肯定的回答90%) ・話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組む態度(児童アンケート 肯定的回答80%) ・学期末まともワークテスト平均(国算理社)(80%) ・東京ベーシックドリル診断テスト合格(80%) 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの場面におけるICT機器の活用方法を、実践を積み重ねながら、学校全体へ広げていく。 ・ドリルパークの活用や補習教室を継続し、学習につまづきの見られる単元の復習を行っている。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年年間指導計画に基づく探究的な学習の設定 ・計画的な読書ノートの活用 ・学校図書館を使用した調べ学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の計画的な実施(100%) ・読書ノートを活用した学習の実施(教員アンケート80%) ・学校図書館や学習者用タブレットを活用して調べ学習の実施(児童アンケート肯定的回答80%) 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・工事関係もあり、学校図書館が十分に利用できなかったため、2学期以降に本を使用するの調べ学習を行っている。 ・学習者用タブレットと共に、本がもつメリットを伝えていく。 ・調べる段階では本を使い、発表に向けてタブレットを使う等、活用の工夫をしている。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間における運動量の確保 ・鉄棒、持久走、縄跳びなど運動遊びの充実 ・25分休みでの外遊び、クラス遊びの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで体育に取り組む態度(児童アンケート肯定的回答85%) ・各カードの達成率(80%) ・すすんで外遊びに取り組む児童(児童アンケート肯定的回答85%) 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に配慮しながら、中休みは全員の児童が外遊びに行けるよう、必ず声掛けをする。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の生活指導夕会の実施 ・月1回の校内委員会、ケース会議、研修の実施 ・保護者、外部機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮、支援を要する児童の把握と共通した対応の実施(100%) ・配慮児童への支援(100%) ・必要に応じた保護者面談の実施(100%) 	A	B			<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童の特性を理解しながら、学校全体で対応していくようにする。 ・2学期より月1回、校内委員会を開催し、外部機関との連携を図りながら、配慮児童への理解を深めていく。 ・ユニバーサルデザインを意識した環境の整備を意識していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導連絡協議会の活用(毎週の生活指導夕会における情報共有) ・いじめに関するアンケート、授業年3回の実施 ・配慮児童との面談実施 ・不登校の組織的対応、対策委員会の定期的開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導夕会の実施(100%)といじめ問題解決(100%) ・アンケート・授業の実施と確実な対応(100%) ・配慮児童との保護者面談(100%) ・計画的な開催と対応実施(100%) 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童に対する情報共有する場を設ける。 ・不登校児童を外部機関へつなげながら、今後も対応していく。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや学校便りによる周知 ・体育学習発表会、年4回の学校公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新週6回以上 ・年間4回の確実な実施と参観人数に制限を設けない公開 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・時期によってHPアップの頻度が下がることもあったので、更新頻度を保ち、学校の様子を伝えていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体への周知 ・教職員、児童、保護者、外部評価の実施 ・中間評価と年度末における評価を基にした改善策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやtetoruでの適切な配信の実施 ・外部評価「教育アンケート」の確実な実施と肯定的回答A・B合わせて80% ・評価を基にした教育課程の改善 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、HPやtetoruを活用した情報発信を推進していく。
	異年齢集団によるなかよし班活動	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みと掃除の時間を使用した6年生を中心とした「なかよし班活動」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班活動に楽しさを感じる児童(児童アンケート80%) 	A	A			<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班活動を継続していく中で、他学年とのつながりを、より一層深められるようにしていく。
特色ある教育の展開	地域連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年単位での学期1回の取組 ・開校40周年記念式典の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的学びや交流の楽しさを感じる児童(児童アンケート80%) ・計画的な地域・外部との連携した取組(100%) 	A	B			<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学びを継続し、楽しさを実感できるようにしていく。 ・40周年記念式典や40周年記念児童集会を活用しながら、地域のつながりを実感できるようにしていく。